

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270500457		
法人名	有限会社マエダ商事		
事業所名	うめたグループホーム		
所在地	〒037-0022 青森県五所川原市大字梅田字福浦475番地13		
自己評価作成日	令和2年11月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設されている、保育園、デイサービスの行事に招かれ参加したり、園児、地域の老人クラブの皆様と花見を楽しむ他、ホームの夏祭りに参加していただき、家族、地域の方々との交流を深めている。田圃に囲まれ、自然に恵まれた環境で野菜の収穫、リンゴの実り等、四季を感じながら生き生きと生活できるよう取り組んでいます。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年12月15日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

同法人の保育園・デイサービスセンター・温泉施設が広大な敷地の中にあり、その一つとして設立された事業所である。広大な敷地には、果樹や畑、花壇等が有り、コロナ禍で外出しにくい中にも、散歩や収穫を楽しむ事ができる環境にあり、効果的に活用されている。事業所内部は、家庭的な雰囲気の中で利用者個人個人がその人らしい時間を過ごしている様子が伺える。温泉が有り、希望時はいつでも入浴支援が提供され、楽しみの一つになっている。毎月のモニタリング、3ヶ月毎のサービス計画書の見直し・更新がされ、現状に即したケアが提供されている。面会制限の中、タブレットを使用しての面会を始めたりとコロナ禍であっても、考え方はウイズコロナに切換え「出来る事」を前向きに考え実践されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である、介護の目的と利用者の尊厳、地域との交流をホールに掲げ実践に努めています。	理念は、管理者、職員で話し合いのもと適宜検討し見直しが行われている。ホールの見える所に掲げられ、日々の申し送りや会議の際に確認し合い実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園の行事、デイサービスの祭りに招かれ参加している。また、ホームの夏祭りでは家族や地域の方々、推進委員の方々との交流を図っています。	コロナ禍の為、直接的な交流を控えているが、保育園やデイサービスセンターとは職員を介して近況を報告し合ったり、地域の推進委員の方からの手作りマスクの寄贈や、園児が作った立佞武多の作品のプレゼントなどがあり、日常的な交流は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様との関わりや、研修で学んだことを推進会議で報告しながら意見交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね、2か月に1回開催。利用者家族、民生委員、町内住民、行政の出席。ホームでの行事や様子を報告し、意見やアドバイスをいただきサービス向上に努めている。	コロナ禍の為、2か月に1回書面にて報告し意見を頂いている。最近では、家族へ電話や手紙などで近況を伝えるよう助言を頂き、毎月の請求書に手紙を同封する他、LINEを活用しリモート面会や動画などの送受信を行えるよう体制を整え喜んで頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に実情を伝え、助言をいただき、協力関係を築いている。	運営推進会議等にて実情や取り組みを報告する他、コロナ禍における感染予防対策について、直接助言・指導を頂いている。日頃からメールを通じてやりとりが行われており、良い関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルの確認で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束のマニュアルを確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、運営推進会議の中で、毎回議題として取り上げ、事例を活用しながらケアの振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや、会議のほか、必要時話し合いをし、自分の言動を振り返る場を設け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等を確認し、理解することで活用の必要性について、相談、話し合い活用の支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する疑問や不安がないか、説明しながら確認し、理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、又は電話連絡にて状況報告している。要望や意見を聞かせていただき、問題点はその都度職員間で話し合い、改善に努めている。	面会中止に伴い、意見箱は一時撤去しているが、毎月の支払い時には、家族へ近況を伝え、要望を確認している。遠方の方とは電話でやりとりを行い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、必要時、意見、要望、提案を聞く場を設けている。	管理者は、申し送りや会議の場の他、日頃から職員が意見や提案をしやすいような雰囲気づくりに努めている。業務やシフトに関する意見や提案は、職員と話し合い反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績、勤務の状況に応じた給与水準を考慮し、やりがいのある職場環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受けることで、職員がより良いケアを身に着け実践できるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会加入し、開催研修に出席。その際、情報交換し、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活ができるよう、要望や不安を聞き、家族からの協力も得ながら信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や関係機関より、不安や要望を吸い取り、より良い関係づくりができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望と、現状に必要なサービスができるよう、把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	より良い関係で、生活を共にできるように支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意見や要望をよく聞き、本人と家族の絆を大事にできるように、職員も一緒に支えあえるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの床屋、美容院等、馴染みの場所を利用できるように支援している。	コロナ禍の為、積極的な外出は控えているが、本人の要望に応じ、可能な限り支援している。馴染みの美容院の利用を支援したことがあったが、それ以降、不穏言動が減り、心身の安定にもつながったという事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や、考えを把握し、利用者同士が良い関係性を保ち生活できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、今後の生活に必要な支援をしながら、これまでの関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや、暮らし方の希望の把握に努め、困難なことも本人の意向を考慮し、検討している。	担当制にこだわらず職員全員で気づきを共有し、思いや暮らしの希望の把握に努めている。家族には近況報告の際に、意向を確認しケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅担当者から、生活歴、サービス利用経過当の確認をしている。入居後も、日常の行動や会話から聞きとりし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの体調に合わせて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画を見直しし、職員会議や申し送りで意見や状況の確認をし、変化があった時は、随時見直しをしている。	毎月のモニタリングと、3か月に1回、アセスメントの見直しと課題整理総括表を用いてカンファレンスを開催し、現状に即したケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入、気づきや変化においては申し送りをおこない、共有に努めている。必要な支援は話し合い検討し、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向を聞き、確認し、その時々要望に合わせて対応できる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関連施設の行事で地域の方々との交流を持ちながら、自身のできる力を発揮し、楽しく安心な暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前受診の把握と、希望医療機関を本人と家族に確認し、対応している。	希望に応じ、入居前のかかりつけ医を継続して頂いている。受診は基本的に職員が対応しており、必要に応じ家族も同行している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主治医へ相談し、状況、状態によっては早急な受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態と状況について、十分な情報交換と、家族への報告、今後の方向について医療機関とも相談し、安心して治療を受ける体制に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態、状況について、家族、医療機関と話し合い、相談をしている。病状において、支援が困難な状況である場合、家族と方向性について話し合い支援に取り組んでいる。	入居時に事業所でできること・できないことを説明し同意を得ている。日頃から医療機関と連携が図られており、状態悪化時には、家族や医療機関と十分話し合いを行った上で、その都度必要な支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命講習を受け、事故や急変について、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定避難訓練を実施。運営推進会議を通して、避難の協力をお願いし体制を築いている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、水害時の避難体制も職員全員で確認している。今年度はコロナ禍の為、事業所内での実施となったが、近隣の職員や地域住民との協力体制は築かれている。近くに井戸水が湧いており、供給可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や、現状を職員間で把握、共有し、その場に合った声掛けをし対応している。	日頃から職員全員が声掛けに注意している。申し送りや会議の場では、理念にある人格を尊重したケアが提供できているか振り返りを行い、実践につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉や行動から、本人の思いをくみ取り、自己決定ができる働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の、状態を把握しその人のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや着やすさを重視。また、定期的、希望があるときに理美容を利用できる体制をとっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食卓を囲み、楽しく食事ができるようにしている。本人の能力に応じて、食事の準備、配膳や下膳をお願いしている。	外食が出来ない代わりに、地域のお弁当屋を利用したり、季節や行事の際には、見た目も楽しめるようなメニューを考えている。入居者と一緒に山菜や野菜の下ごしらえを行い、季節感を味わいながら食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や習慣を把握し、水分や摂取量、栄養バランスを考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、定期的な義歯洗浄で清潔を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記録、普段の排泄パターンの把握、事前誘導で自立に向けて支援している。	排泄チェック表を用い、事前に誘導することで、トイレでの排泄を支援している。夜間は睡眠を優先し、状況に応じパッド交換の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動の取入れ、食事の工夫と水分摂取の確認で便秘しないように働きかけている。便秘傾向の方は、主治医と相談し改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日以外に本人の習慣や希望を取り入れ、支援している。	週2回その他、希望があればいつでも入浴できる体制が整っている。近隣の温泉と同じ泉質を楽しむことができ、効能もあってか皮膚トラブルもない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合った状況で休めるよう、声掛けや誘導している。状況に変化があった時は、職員間で状況を確認し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録で状況、状態を把握。薬情を個人ファイルに管理し、いつでも確認ができるようにしている。変更があった時も、申し送りや記録で職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人と家族からの情報、又は暮らしている状況からその人に合った役割を見出し、楽しみながらできる力を生かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を取り入れ、散歩や買い物支援で気分転換を図り、家族とも相談しながら、外出や外泊の支援をしている。	コロナ禍の為、外出行事は行っていない。敷地内や近隣に畑や花壇、リンゴ、栗などの果樹がある為、散歩をしながら気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の意向を確認し、できる限り対応。販売機の利用、買い物の支払いの支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に相談、確認し、希望時は連絡できるように対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季の装飾で季節を感じられるようにし、共有の場所も不快にならないように、テレビの音量や日差しに配慮している。	共用スペースには、大きなテレビの他、椅子やソファが各所に設置され、入居者の居場所づくりに配慮されている。又、入居者と一緒に作った装飾が施され、季節感と温もりがある空間となっている。キッチンが傍にあり、程よい生活感が入居者の安心につながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性に配慮し、ソファー、食卓の配置を変えている。また、個々が過ごしやすい場所へ、誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みのもの、馴染みのある生活用品で、日々を過ごせるような空間を工夫している。	テレビや家具など馴染みのものを持ち込んで頂いている。家族の写真や、好みのポスターを掲示するなど居心地よく過ごせるような工夫がされている。仏壇を持参している方もおり、職員の支援により毎朝のお供えを継続している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる、わかるを生かせるよう、手すりや、目印を設置し、安心、安全、自立した生活を送れるようにしている。		